

# 所報

No: 46  
佐賀県教育センター

佐賀県佐賀郡大和町川上  
TEL 0952-62-5211

## もくじ

○ 卷頭言「国際理解に対応する教育」	1
○ 昭和62年度研修事業（短期研修講座）の実績と昭和63年度の構想	2, 3
○ 昭和62年度研究紀要の概要	4, 5
○ 指導のチェックポイント	6, 7, 8
○ パソコン研修講座初年度の総括	9
○ 長期研修生寸感	10, 11
○ 私のすすめる一冊の本	12

## 卷頭言

# 国際理解に対応する教育

佐賀県教育センター 研修一課長

西山武人



わが国は、少資源国でありながらも国民の努力により、貿易立国として、今日の経済発展をなしとげてきた。今後、一層の発展、繁栄は他国の資源に頼らざるを得ないだろう。

したがって、わが国ほど国際的相互依存関係に基づく国際協力、協調を必要としている国は他にないといえる。

また、科学の発展が世界の時間的距離を急速に縮めつつある今日、国際的な人類の平和共存が叫ばれている。21世紀に生きる、児童・生徒たちに対しての学校教育のあり方、国際人としての資質の養成は急務である。

このようなすう勢のもとに、国際化とか国際理解という言葉が多く使われ、中身についても検討され尽した感がある。しかし、国際人としての基本的問題についてはまだ検討の余地が残されているようと思える。

国際人を育てるためには、外国の歴史・社会・文化を学びとり、生きた外国語の習得が必要である。また、知識より体験が必要であり、早い時期に現地体験をさせるべきだとも言われている。

しかし、言うに易く行うに難いことばかりである。日本人としての教養を深めることだけでも容易でないのに世界の情勢に目を配り、さらに、外国語を習得し、歴史・社会・文化を学びとるということは、たとえそれが一つの国についてであってさえ困難なことである。

私は、そのことよりむしろ、知る際の「知り方」、学ぶ際の「学び方」の態度が大切であると言いたいのである。例えば、ソ連を理解しようとする場合、その理解のしかたが問題なのである。その国の言語や社会など表面的な知識だけをとらえようとすれば、それは一面的、あるいは誤った認識を与えかねない。

国際化にとって、今、求められている基本的问题は、一人ひとりの人間に人やものを見る目を育てることであり、やさしい目、豊かな感性で自然や人に接することができる人間性を磨き上げることであると思う。

それは何も外国へ行ったり、外国人から学んだりする必要はないのではなかろうか。身近な自然・社会・人々で十分であると考える。素晴らしい自然に感動し、不幸な人々に涙を流し、どんな人でも持っている長所を学びとろうとする資質を育てるべきである。このような資質をもって、国際社会における人との係わりをもつことができれば、素晴らしいと思う。国際理解というのはそれが独立してあるのではなく、教育の全体から生み出される人間の生き方そのものに係わることなのである。国際理解のための教育は、学校教育のすべてではなく、また学校教育目標と併列させるものでもなく、あくまで学校教育の目標を達成するための方策と位置づけ、学校教育目標を具現化する中で国際理解教育のねらいを定めるべきであると思う。

## 昭和62年度研修事業（短期研修講座）の実績と 昭和63年度の構想

### 1. 昭和62年度の実績

- 本年度の短期研修講座を総括すると、次の通りである。
- 教職員の資質・能力の向上に役立つ効果的な研修を行う。
  - 研修内容の改善・充実を図り、教育指導上の要望にこたえる。
  - 研修方法に創意工夫を加え、教職員が意欲的に参加できる研修を行う。

これらを柱にして、108の講座を設定した。受講者総数は、2,852名で、定員より、424名上回り、上記3点の目標はほぼ達成できた。

#### (1) 短期研修講座の領域別、校種別受講状況

講座の領域	校種	講座数	定員	受講者数
教科	小学校	22	609	626
国・社・算(数)・理 英・音・国(美)	中学校	14	274	266
高・等・学・校	高等学校	14	234	222
合同(小・中・高)	合同	2	55	57
経営等	小学校	11	298	362
道徳・特活・ べき地・パソコン 評価・学校 ・学級経営 ・事務等	中学校	8	172	225
高・等・学・校	高等学校	6	136	128
合同(小・中・高)	合同	8	160	220
教育相談	幼稚園	1	50	74
情報処理	合同(小・中・高)	11	332	595
職業高校	小学校	11	108	77
総合	合計	108	2,428	2,852

(表1)

#### (2) 短期講座の感想

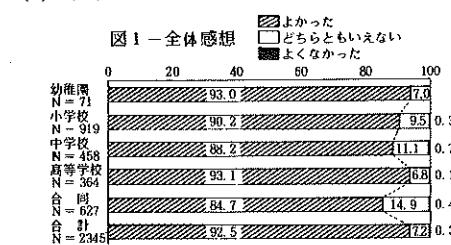


图1 - 全体感想

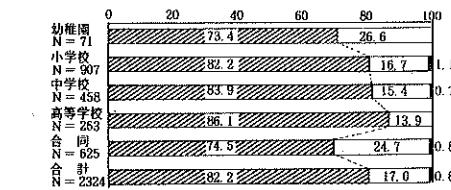
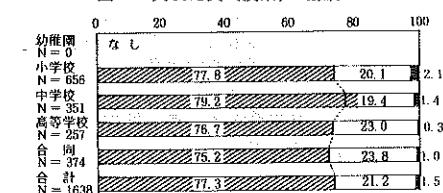


图4 - 実践発表(授業)・協議



(3) 講師等

地 域	62 年 度		63 年 度
	計画	実績	計画
県 内	大学等(佐大、短大他)	60	70
	教職員、教育庁関係	180	195
県 外	九州内大学等	47	42
	近畿以西大学等	13	12
中 部	中部以東大学等	4	5
	総 計	304	324
			323

(表2)

講座内容の充実を目指して、広く全国各地から、それぞれの分野の著名な研究者、実践家を招き、講座内容の充実を図った。

#### (4) 役立った事柄

##### ○ 原理・理論的なもの

教師としての反省と今後の意欲づけ・心がまえ、教科・領域等に関する専門的な理論や学習指導法、広い視野に立った見方・考え方、好ましい学習集団を育てる学年・学級経営の理論、教育相談と児童・生徒理解。

##### ○ 実践的なもの

現場教師による具体的な実践発表、授業参観及び授業研究会、問題行動を起こす児童・生徒の事例発表、教材・教具・資料の作成、CAIの教材作成、学習指導案の作



成のしかた。

##### ○ 実技・演習的なもの

コンピュータ及びパソコンの操作技能の習熟、教育法規の演習、学習指導案及び学級経営案の作成、理科実験・観察装置の工夫と製作、S-P表の作成と利用。

##### ○ 情報交換的なもの

他校の先生との交流と意見交換、他校の実践を知る、学習指導上及び生徒指導上の諸問題とその取り組みについて。

#### (5) 受講後における現場での利用状況

演習で作成した学習指導案で授業を行う。自作教具作りやワークシートの作成、パソコンを教科指導に取り入れる。学習指導案の作成と発問の工夫、校内研修、学級経営、生徒理解と教師のかかわり方、理科実験の工夫、生徒指導に関すること。

### 2. 昭和63年度の構想

#### (1) 具体の方針

- ① 教育の効果は教師に負うものが大きいことを確認し、計画的な研修を行う。
- ② 研修内容の改善・充実を図り、教育指導上の課題にこたえる実践的研修を行う。
- ③ 研修方法に創意工夫を加え、それによってあみ出されたいろいろな方法を用いて、教職員が意欲的に研修に参加できるようなものにする。

#### (2) 短期研修講座

校 种	講 座 数	受 講 定 員
幼 稚 园	1	50
小 学 校	34	928
中 学 校	25	509
高 等 学 校	32	502
合 同 (幼小中高特)	24	622
計	116	2,611

(表3)

#### (3) 領域別講座数及び受講者定員

領 域 等	講 座 数	講 座 日 数	受 講 定 員
教 育 関 係 講 座	53(1)	138	1,196
教 育 経 営 関 係 講 座	41(2)	149	985
教 育 相 談 関 係 講 座	11(2)	70	322
情 報 处 理 関 係 講 座	11(3)	96	108
計	116(8)	453	2,611

( ) 断続研修

#### (4) 復活・増設される講座等について

従来の小学校学年経営講座に、現場からの要望で中学校を入れ、小・中学校学年経営講座に変更する。評価関係3講座は、指導と評価基礎、小学校学習指導と評価、中学校学習指導と評価に衣替えする。

パソコン棟建設、機器導入等の業務のため62年度は休講していた教育工学、視聴覚指導者講座の2講座を復活させる。また、パソコン関係講座も63年度は、小学校中級、上級講座等6講座を増設し、現場の強い要望に応えるようにした。

#### (5) 宿泊日の設定

2~5日間の講座期間内で、原則として1泊以上の宿泊日を設けている。夜の自主研修では、教育上の諸問題についての情報交換、天体観測やパソコン等の機器の実習を行い、教育実践に役立てることを目指している。受講の先生方の宿泊をお勧めする。

#### 3. おわりに

“教師として、あなたは、今何を求めていますか” 今日教職員の研修の重要性がさかばれています。当センターでも現職教員の研修の体系化問題に取り組むことにしています。

63年度は、62年度より8講座増の116講座を設定し、県内外の著名な講師を招き、講座のよりいっそうの改善・充実のために鋭意努力中です。

多数の先生方の自主的な研修への参加を心からお待ちしています。



# 昭和62年度 研究紀要の概要

教育センターでは、教科・領域別に17の研究主題を設けて研究を進めてきました。そのうち、9つの研究が62年度に完結しました。新年度4月には各学校に「研究紀要第12集」として配布する予定です。研究に当たっては、県内の小・中・高校のご協力と研究委嘱をお願いした20名の先生方のお力添えをいただきました。学校現場での指導上の課題にできるかぎり沿った内容になるように心がけたつもりです。教育活動の充実と改善のためにご活用いただき、ご批正を賜れば幸いに存じます。

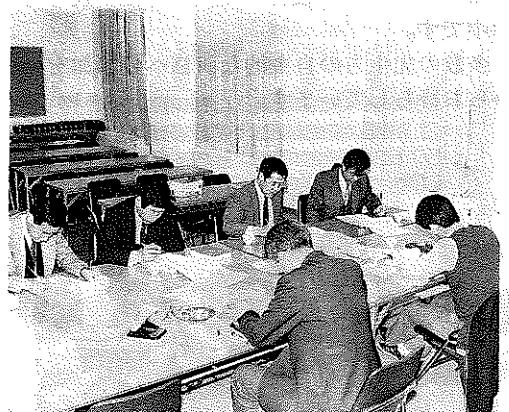
## -基礎調査-

**「学習意欲と児童・生徒の生活実態にかかる調査研究」**

学校教育のあり方が内外の関心をあつめているが、児童・生徒のレベルで考えれば、つまり「やる気」(学習意欲)をどのようにして培っていけばよいのか、ということであろう。

本調査研究では、児童・生徒の本人および本人をとりまく環境について40項目の調査を、小4から高3まで、のべ3,121名を対象に行った。

まず学習意欲については、小・中・高とも男女による違いはみられなかったが、中学校での落ち込みが目立っている。また、学習意欲を育てる要因としては、自律性(本人)・すぐれた指導(教師)・家族との対話(家庭)・信頼できる友達(友人)などに強い関連が出ている。

**「小学校理科-豊かな自然認識を育てる理科指導の工夫-「生物とその環境」」**

借り物の「目」と借り物の「耳」で疑似的な経験を数多くしてきている現代の子どもたちに自然に親しませ自然に対する豊かな認識を身につけるにはどうしたらよいのか。本研究で

は、一人ひとりに生き物を飼育させる手だてとしてフィルムケースを用いたり、ミクロの目を全員に持たせるためにビデオ装置を使ったり、また、野外観察と教室学習とを効果的に組み合わせたりという3点にポイントをおいて研究をすすめた。4年の「モンシロチョウ」5年の「メダカ」の2つの実践授業にもとづいて、「豊かな認識」をはぐくむ指導法を明らかにしていくことが研究のねらいである。

## -高校生物-

**「生物領域における身近な自然を生かした理科教材の研究」**

本県の高校生が今後も続けて学習を深めたいと思っている単元として、「生命の連続性と進化」があげられる。

このことは、今日、分子生物学やバイオテクノロジーの目覚しい発展が、私たちの生活に大きく貢献しようとしている現状を、敏感にとらえ反応しているところも多くあるように思える。

この現象を興味・関心のみに終わらせず、さらに深く探求しようとする態度を助長させることが必要であると思う。

そこで「生命の連続と形態形成」について、身近な自然を生かした実験・観察法の工夫を模索してみた。

## -高校地学-

**「地学領域における身近な自然を生かした理科教材の研究」**

理科教育で、自然とのふれ合いや身近な自然の事象を、学習指導に導入することの重要性については、よく耳にします。しかし、フィールド、季節や時期、授業時間数の問題等で、野外観察はもとより、実験・実習もままならないのが実状のようです。

そこで効率化を図るために、最近流行のパソコンを授業に導入した事例として、惑星の運動や、地質断面図の作成等の紹介をしています。

ドリル形式やOHPで間に合うものを避けて、パソコンでなければできないものを目指したつもりです。先生方に味付けをしていただき、ご使用、ご批評をいただければ幸いです。

## -小学校道德-

**「道徳的実践力を育てる指導-自己を道徳的に見つめさせる指導の工夫-」**

道徳教育は、学校教育の中で児童の人格形成に極めて重要な役割をもっており、児童一人ひとりが、自らを自らが律することのできる力を身につけることを目指している。その中核をなすのが道徳の時間である。そのため、道徳の時間の指導は、児童一人ひとりが今までの自己の姿を見つめ、自己のあるべき姿を自らに問う指導をすることが大切である。

本研究は、児童一人ひとりが道徳的に自己を見つめるために、指導の展開における児童の実態(行動や意識)の活用、関連する道徳的価値の構造化、価値の関連構造による展開を授業実践を通して考察を加えたものである。

## -中学校特活-

**「中学校特別活動の活性化を図るための方策」**

## -生徒会活動を中心にして-

生徒会活動の活性化を図る方策を探るために、県下18校の生徒・先生方に実態調査を依頼し、これに若干の考察を加えた。他方、成章中学校と大川中学校において、実践研究を行った。

これらの結果を要約すると、以下の4点があげられる。

- (1) 生徒・教師が生徒会活動に対し、正しい共通理解を持ち、共同行動をとることの大切さ。
- (2) 教師も生徒も多忙な今日であるが、生徒会活動を実施する時間と場を確保してやる。
- (3) 個々の生徒に、生徒会活動をやって少しでも成就感・満足感を体得させる。
- (4) 担任の有効な指導助言があれば、生徒は意欲を燃やし、積極的な活動を行う。

## -中学校教育評価-

**「形成的評価における一形態の研究-自己評価による学習態度の変容-」**

今日、自己教育力の育成が学校教育の重要な課題として取りあげられている。生涯学び続ける態度を身につけさせるためには、子ども自らに学び方を学ばせる必要がある。

自ら学ぶ力を育てるため、自己評価をすることによって、学び方や到達状況を確認する意識を高めさせなければならない。このような能動的な自己評価が、形成的評価の本来の姿である。

そこで、本研究では、自己評価を学習過程の中に意図的に取り入れ、これが生徒の学習態度の変容にどのようにかかわるかを探り、望ましい自己評価のあり方を求めている。

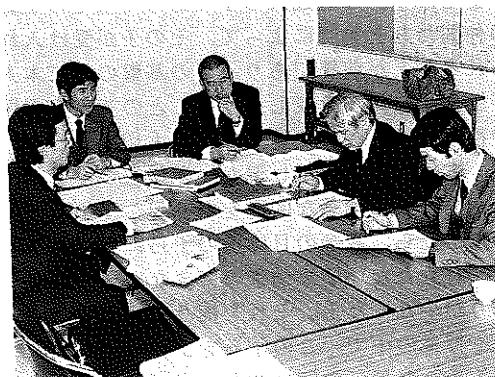
## -教育工学-

**「パソコンを教育にどう生かすかについての研究-小学校算数科、中学校理科の教材開発をとおして-」**

パソコンを授業に取り入れていくためには、教材ソフトウェアが必要である。そこで、教材ソフトウェアを開発し、授業実践を行い、その評価・反省をもとに修正し、次の教材ソフトウェアの作成に生かしていく。このサイクルをとおして、教材作成技能を高めることが大切である。

昭和61年度に小学校算数科(1年たしざんとひきざん)、中学校理科(1年気体の性質)の教材ソフトウェアを開発した。

そして、今年度は、この教材ソフトウェアを授業で使用し、改善をはかるとともに、事前・事後テストによる評価を加え、児童・生徒の意識調査も行ってみた。



## 指導のチェックポイント

### 特殊教育

#### 小学校普通学級における知恵遅れの子の指導

◇ 昭和54年度の義務化に合わせて県や市町村に就学指導委員会が作られ、適正な就学指導がなされるようになった。

しかし、まだ普通学級の中にも「知恵遅れ」と思われる児童が在籍しており、当センターにも、「普通学級に在籍している知恵遅れの子の指導はどうすればよいか。」という相談がよくある。そのような子供について、普通学級で、どのような点に配慮して指導すればよいかを考えてみたい。

##### 1. 長所を発見し意欲を喚起する

知恵遅れの子は、一般的に「多動で落着きがない。」「ことば数が少ない。」「だらしがない。」「授業についていけない。」等の行動面や知能面での特徴が見られる。担任にとっては、そういう特徴が指導上頭を痛めることなのであるが、この子らにも学校生活の一日の流れの中で何か魅力を感じる場面があるに違いない。何が一番楽しみなのか日課を見直して、この子らに合った役割を与えることも大切であろう。

ある学級で、教室の花の水をとりかえることと学級園の世話をすることに意欲をもやして、先生からほめられることを楽しみに登校した児童がいた。また、ある子はペルマーク集めの係となり、大変きちゅうめんにその仕事をやり続けたという事例もある。

ともかく、知恵遅れの子であってもその学級の仲間たちと教師によって、その子が受け入れられることが前提であり、その基盤の上で本人が主体的に何かを成し遂げることのできる課題や役割が用意されていることが大切である。

##### 2. 友人関係を改善し温かい学級をつくる

活発な子や顕著な問題を引き起こす子らが学級にいたら、教師の目はその子らに奪われがちで、目立たない子や勉強のできない子にはかかわりが少なくなる。それを補うためには、学級会や授業の中で、この子らを学級の中に位置づけるような担任の積極的な指導が必要である。

学級の児童たちがその子の長所や特徴を理解することによって、その子への接し方が変わってくるはずである。学級の一人ひとりが温かい目でその子を見つめ、小さな変化も見逃すことなく教師に報告し、みんなでその子の進歩を喜び合うことは、その子には大きな励みとなろう。

教師があまり指示的でなく、学級の児童たち自らがすんで知恵遅れの子の学習や生活の世話をしていくような温かい雰囲気をつくりあげる工夫が大切であろう。

##### 3. 学習指導を工夫する

知恵遅れの子は、知的な理解力を必要とする教科においては高学年になるにつれて他児童との学力差は広がることがわかっている。一般的には知能指数60~70程度の6年生で2・3年生程度の学力になるといわれている。それは知恵遅れの子の持つ「抽象的思考能力が低い。」「知覚が未分化である。」「記憶の痕跡が不安定である。」等の心理的特性のためである。

だから、国語や算数の授業で部分的には参加できても全般的な参加は無理であろう。しかし、音楽・体育・図工ではかなりの部分で参加できると思われる所以、これらの教科を重点的に指導する方が効果的であろう。

音楽では、簡単な楽器の合奏とか齊唱など参加できる場面も多い。本来、知恵遅れの子は歌うことは好きである。音楽の時間を楽しく過ごすことは心を開放する意味でも有意義である。

また、図工で見られることは、認知する能力が低いために表現内容が乏しくなりやすいことである。表現内容を豊かにするには、子供の生活経験を広げ、ものを観る力を育ててやることが必要である。色彩や形についても細かな注意が自分でできないので、よく本人に確かめて認知の力を育てる配慮が必要である。

体育では、「平衡感覚の調整力を養うこと。」「各動作のつながりをうまくできるようにすること。」「敏しょう性・巧緻性を養うこと。」

などに留意して指導し、知恵遅れの子の特性をカバーしていくような配慮が必要であろう。体育は体力づくりや技術の習得だけでなく、性格の改善にも役立ち「自分にもできる。」という自信をつくり出すきっかけにもなり得よう。

以上、2・3の教科を例にあげて指導上の留意点を述べてきたが、一斉指導の中でどれだけ個別化をはかっていくことができるかということが大きな課題である。このことは、指導案の立案にあたっても、この子供たちに対する配慮をはっきり意識する必要があり、指導案の中にそれを明示するきめの細かさが必要である。

##### 4. 家庭との連絡を密にする

知恵遅れの子の指導は、父母の協力を欠いては成り立たない。この子らにとって、基本的な生活習慣の形成は大きな課題であるが、そのことについての指導は学校ではできにくい。また家庭ではその指導法が適切でない場合もあるので、家庭訪問などによって実態をよくつかんだうえで、小さなステップを父母といっしょに作成し、根気よく指導していくよう親を励ますことが大切である。

また、家庭と学校の「連絡ノート」などを特別に作成して家庭や学校での生活のようすを詳しく知らせ合い、それを指導の手がかりにする

## 中学校理科

### 「電流と磁界」での実験方法の工夫

中学校理科では、実験や観察を通して自然を調べる能力や態度を育て、自然の事物・現象についての理解を深めさせることが大切である。

昨年、当センターで、中学校における理科の学習指導についてアンケートによる調査をした。その結果をみると、理科の学習指導は、実験・観察が中心で、実験・観察の少ない学習項目でも、ビデオ等を積極的に活用されるなど、指導の工夫がうかがえた。それぞれの先生方が、生徒の学力を向上させるために、いろいろと苦労されていることがわかった。

実験をするときは、教科書に示してある実験方法を中心にしてするが、教科書に示してある実験方法に少し手を加えると、良い実験結果が得られたり、実験の失敗が少なくなったりする。そこで、ここでは、実験の工夫を取り上げてみ

ような積極的な工夫も必要である。こうした教師の細かい配慮が家族全体を勇気づけ、教師と家庭の関係を深めていくことになる。この子らの指導にあたっては、いわゆる特効薬はなく教師の創意と熱意が問われるところである。

また、この子供たちには学習習慣の改善を図らなければいけないことが多い。「勉強をやろう。」という気持ちを起こさせ、それを生活のリズムの中に組み入れるには、生活全体の調整を考えなくてはいけない。そのためにも家庭との連携を密にし、しっかりと父母の心をつかみ、親自身がすんで問題を持って相談にくるような関係を作らなければならない。

◇ 以上、四点を述べたが、他の学級の児童や他の教師に対して充分な理解を得られるよう働きかけることも忘れてはいけない。しかし、知恵遅れの子に対する普通学級での指導には限界がある。その子の指導が普通学級ではどうしてもできないことがはっきりしたら、校内や市町村、また県の就学指導委員会に相談して適正な就学指導をすべきである。そのためには、父母と充分な話し合いをし、その子の能力に合った教育の場を探すよう努力すべきである。

(研究員 金子 梨輔)

たいと思う。

ここで取り上げた実験方法は、新しい方法ばかりではない。もう、すでに実践されている先生方や、もっとすばらしい工夫をされている先生方も多くおられると思う。

教科書に示してある指導方法だけにたよらずに、理科がわかるようになった生徒や理科が好きになった生徒が一人でも多くなるように、実験・観察方法の工夫をしたいものである。

ここにあげた実験方法は、それぞれの先生方が実験方法を工夫されるときの参考になればと思って示したものである。

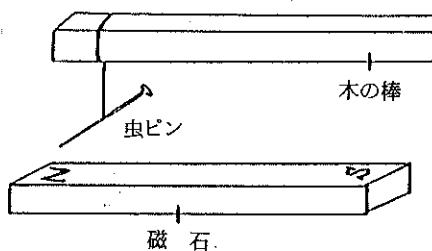
##### 1. 磁石のまわりの磁界

磁石の上に置いたプラスチックの板や厚紙に鉄粉をまいて、磁界のようすを観察する実験。この方法は、磁界のようすをゆっくりと観察で

きるし、内容を発展させて、同種・異種の磁極を向き合わせたときの磁界のようすの観察に適している。(鉄粉を厚紙の上に薄く均一にまくには、千枚とおしなどでふたに穴を開けたフィルムケースを使うと良い。)

しかし、この方法は、平面的な磁界の観察ができるが、磁石の回りにある立体的な磁界の観察はできない。そこで、次のようにすると、立体的な磁界のようすを観察することができる。

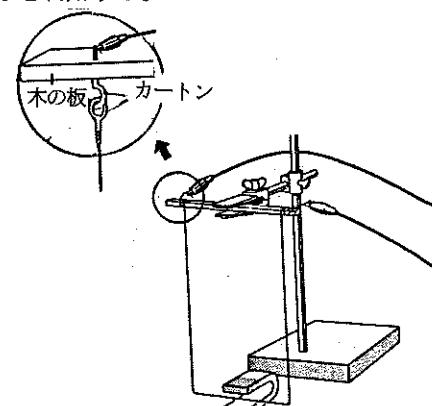
虫ピンを細い糸で割り箸などにつるし(糸は短いほうがよい)、磁石に近づけると、虫ピンは磁力線にそって静止する。虫ピンを動かすと虫ピンの傾きが変わり、磁石のまわりの磁界のようすを立体的につかむことができるようになる。



## 2. 磁界の中で電流が受ける力

### (1) 電気プランコ

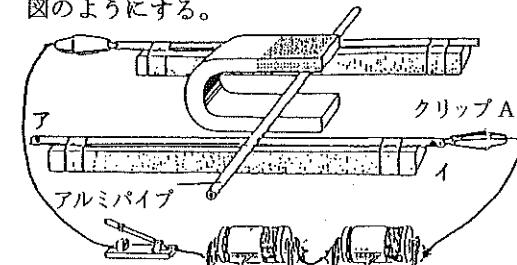
エナメル線のプランコに、他からよぶんなん力が加わったり、電流の流れが悪かったりするとプランコの動きが悪くなる。その改良として下図のように、しんちゅうのカートンなどを利用する。



このようにすると磁力の弱いU型磁石でもプランコは良く動くし、乾電池1個でも良く動く。

### (2) アルミパイプを動かす実験

この実験では、電源装置を利用したときに電源装置が故障することがあるので、みのむしクリップAを金属棒に接続する場所を次の図のようにする。



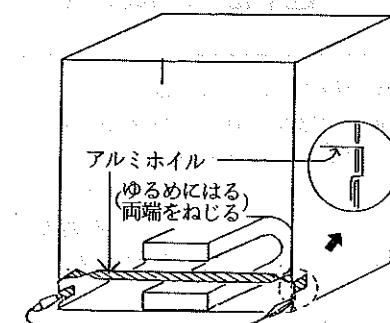
教科書では、みのむしクリップAを金属棒のアの場所に接続しているが、アルミパイプの位置によっては過大電流が流れことがある。接続場所をイにすればアルミパイプの位置がどこであろうと、この回路に流れる電流の大きさは一定になり、故障を防ぐことができる。

U型磁石の代わりに、フェライト磁石を2本の金属棒の間に並べる方法もある。

### (3) アルミはくを利用した実験

左手の法則を実習するとき、前述の方法では装置の向きを自由に変えることができないため、左手の動かし方がわからずこの法則を理解できないことがある。

アルミホイルを幅1cmほどの帯状に切り、紙などの枠に固定すると、磁石の置き方や電流の向きを自由に変えることができ、左手と対比させながら実験ができる。



「電流と磁界」の実験における電源は、実験のしやすさなどからして、平型の乾電池が望ましい。

いろいろ工夫することによって、生徒の興味をひく実験方法を開発していきたいものである。

(研究員 大平伸夫)

# パソコン研修講座

## 初年度の総括

### 1. はじめに

県教育委員会は、昭和60年度に時代に対応した新しい教育を推進するため、「パソコン教育拡充計画」を打ち出した。

教育センターではこれを受けて、学校や地域でのパソコンの教育利用の中核的な役割を果たすことができる、教師を養成するための研修講座を昭和62年10月より開講した。

本稿では、当教育センターの計画しているパソコン教育事業計画、及び今年度実施した研修講座の概要を報告する。

### 2. パソコン教育事業計画の概要

#### (1) 基本方針

- ① 学校現場で利用できるパソコンの教育利用方法について幅広く研究し、学校や地域での指導者を養成する。
- ② 情報収集・調査研究を手がけ、国立教育研究所が進めている教育情報データベースへの対応も含めた総合的なパソコンの教育利用について検討する。

#### (2) 事業内容

- ① パソコン教育研究
  - ア パソコン研究委員会
  - イ 教材作成委員会
  - ウ 教育利用についての調査・研究
- ② 短期研修講座(初・中・上級へ順次受講とする。)
  - ア パソコン初級講座(4日間)
  - パソコンの教育利用リテラシー(活用能力)の習得。
  - イ パソコン中級講座(4日間)
  - パソコンの教育利用についての知識と教材ソフトウェア開発に必要な技能の習得
  - ウ パソコン上級講座(4日間)
  - 校種に応じてのパソコンの教育利用についての習得
- ③ 断続研修講座(10日間)
  - 教材ソフトウェア開発に伴う高度な内容を研修し、具体的なソフトウェアを作成する。

成する。

- ④ 長期研修
- ⑤ 研修援助

### 3. 昭和62年度実施の研修講座

実施した講座は、初級(小・2講座、中・1講座)、中級(中・1講座、高・2講座)、上級(中・1講座、高・2講座)の短期研修9講座と断続研修2講座である。

講座内容は下記の事項を考慮して、指導者として要求される基本的内容とした。

- (1) パソコンを教育へ利用することの意味を十分理解して正しく利用するためには、C A Iを一通り経験して知識を習得することが必要である。
- (2) 実際に教室で使用するときに、本当の意味で利用価値のあるパソコンの利用方法を考え出すことが必要である。
- (3) 教材研究、目標分析、教授方略等を重要視することが必要である。

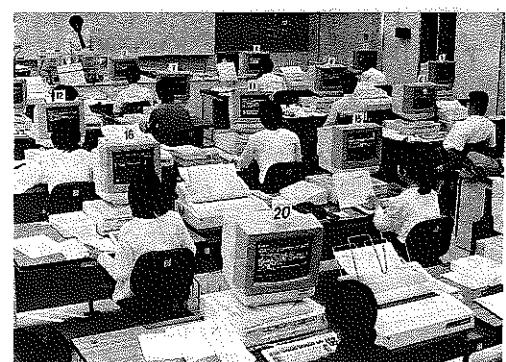
### 4. おわりに

その他の事業実績として、パソコン研究委員会を小学校・中学校・高等学校各部会別に10回実施した。

来年度は短期研修講座15講座、断続研修講座2講座の計17講座を実施予定である。

### 関連文献

- ・ 教育佐賀 63年3月号
- ・ 佐賀県教育センター研究紀要 第12集



## 長期研修生寸感

## 研鑽を積む

本年度、小中高の27名の先生方を長期研修生としてお迎えした。先生方はそれぞれ研究テーマを設けて、3~6か月の研修に励んでおられる。また、教師としての幅広い教養を身につけるために史跡探訪や談話会など、様々な研修にも参加されている。研修生活の中で、ふと洩られたつぶやきを拾ってみた。次の先生方は、既に現場に復帰されている（敬称略）

吉岡啓一（伊万里商高）山口士道（佐賀商高）古賀俊光（唐津商高）田久保真介（佐賀工高）

## 脚下照顧する　　-小学校国語-

嬉野小学校　永池　守

静寂の中で、己をみつめ、自己の在り方を顧みる時間と空間は誠に有難い。脚下とは、自分の目標であり、自分自身そのものであると考えたい。研修中における人や書籍との出会いは自分をみつめなおす素晴らしい機会である。

## 出会いの魅力　　-小学校社会-

大坪小学校　古川　恵右

長研室で、小・中・高校の先生方とそれとの事情などを話す。所外に出て、地域教材作りに奔走する。図書室で、レポートまとめに、本とワープロと共に格闘する。今までにない出会い。この出会いを教職再スタートの糧したい。

## マンネリを打破　　-小学校算数-

赤松小学校　辻　勝治

今年度で教職十年目をむかえて、ともすると何事にも要領よくやろうとする惰性に流されることがある。この長期研修で学んでいく中で、自分の非力さを痛感し、また、再び原点からやっていこうという気持ちになった。

## 扉を開けて　　-小学校算数-

大浦小学校　池田　照子

算数に興味をおぼえ、もっと深く知りたいと思って入った研修生活。扉を開けると、中はまっ暗で、手さぐりで一つひとつをさがしている状態です。奥はまだまだ深いようです。子どもたちと一緒にまた一步を踏み込みたいものです。

## 十分な作戦を　　-小学校理科-

若葉小学校　木原　敏

10、11月はあっという間に過ぎ去り、自分の進む道が見えたのが12月です。そして今、理論と実践の谷間で必死にもがいています。子どもたちとの戦いの中で、作戦をたてるこの重要性を痛感させられました。作戦開始！

## 雑感　　-小学校理科-

能古見小学校　松尾浩太郎

入所した頃は、自分の時間がもてたことに、

非常に嬉しさを感じていたが、自分の計画のままでから、この頃は時間に追いかけられるようになり、焦りをおぼえています。残り少ない研修期間を、自分に厳しく頑張りたい。

## 寸感　　-教育工学-

日新小学校　福山　義規

人と環境に恵まれた教育センター。学校では考えられない日々を送っている。学校のバタバタした忙しさはないが、瞬く間に月日が過ぎる。現場に帰ってから、役に立てたいものだと思いながら残り少なくなった研修に励んでいる。

## ひとこと　　-教育工学-

六角小学校　岩永　見信

センターで小・中・高のわくをこえて多くの先生方とふれあい、自分の視野が広がったようになる。研修においても授業設計の重要性を学んだ。研修も残りわずか。学校現場での活用を目指しながらキーボードをたたいている。

## 雑感　　-教育相談-

鏡山小学校　尾崎　隆

今までの子どもの問題の理解が如何に表面的であったことか。子どもについて知る。子どもに対して考える。子どものために努力する。子どもと共に解決する。この4つの視点を現場で活かしていかねばと思うこの頃である。

## 理論と実践　　-教育相談-

吉田小学校　剣上　和俊

理論は難しい。実践もまた難しい。教育相談



## 第46号

の場合、実践を通して、はじめて、理論の真の意味が理解できることが多いと思う。その点から考えると今度の研修は得るところが多かった。時を越え、所を越え勉強は必要であると思う。

## 雑感

## -中学校社会-

三根中学校　下川　孝廣

図書室の片隅で壁に向かい、文献をあさり始めて早くも4か月余り…何もわからないままセンターへ来た私ですが、今は何となく視野が広くなった様な気がします。半年間研修に打ちこめる機会を得たことを大変有難く思っています。

## 宝の山

## -中学校社会-

浜玉中学校　大草　重幸

合同研修や講座での諸先生方の有益な講義。資料室の専門書や研究冊子。それに、所員の先生方や長研の先生方との小中高の枠を外した触れ合い。この宝の山で一つでも多くの財宝を発掘して現場に持ち帰りたいと思っています。

## 寸感

## -中学校数学-

滝野中学校　西山　寿延

6か月の研修期間も残り僅かになってきましたが、3次元グラフィックスの基礎を習得できたことに、大きな成果があったと思います。授業で使っていける自信もできました。残りの期間をさらに充実したいと思っています。

## 出会い

## -中学校英語-

城南中学校　古賀　信義

センターでの研修生活には、色々の出会いがあります。他校の先生とのふれあい、本、水曜談話会、合同研修、センター講座、そして自分をみつめる時間。一日一日が、すばらしい出会いの連続です。今日も一日を大切に使わなくては。

## 省察の機会

## -中学校道德-

鍋島中学校　久原　昇

無我夢中のこれまでの実践、省察のこの機会。他の実践を調べ、己の無力を知る。未知の理論に触れ、既知の理論を理解する。視野は広がり深められ、意欲は新たに高揚する。静けさ山里豊かな情報、良き指導者、啓発し合う友に感謝。

## 雑感

## -中学校特別活動-

有明中学校　田島　哲郎

研修に来て、種々の本が読め、多くのすばらしい人たちと逢え、多くのことを学んだ。

自分の無力さを感じながらも、現場にもどった時のやる気だけは蓄積できた気がする。この気力と研修内容を指導に生かしたい。

## アジアは見えるか

## -高等学校社会-

佐賀農業高等学校　大串　義則

図書館の蔵書の中に顔を突っ込み1日はアッと言う間「地理教師、見て来たような嘘をつき」と言われるが簡単に見聞もままならず、双眼鏡で宇宙を見るがごとく書物でアジアをみつめる苦難と修行の日々。いつかはインドネシアへ

## 楽考楽山

## -高等学校数学-

鳥栖工業高校　宮原　敏明

あれこれとものを考えることは楽しい。好きな本の世界に浸ることもまた格別である。自分のうちに内在するものを呼び覚ます時間が与えられてよかったです。「気を張りて頂目指す山道の陥しきとぞ眺め妙なる」

## 研修に思う

## -高等学校理科-

伊万里農林高校　諸岡　直樹

窓の外には空が有り雲が流れる。学校では見えにくかった世界を感じている。日々追われる時期もあったが、時間と本としっかりつきあえ、少しあ蓄えが増えたように思う。4月からの現場復帰、エネルギー充填完了。

## 寸感

## -高等学校英語-

唐津東高校　川久保　潔

初めてゆっくり自分の研究というものを体験している。そして、改めて自分の目的意識や問題意識の希薄さを実感した。これまでの仕事や考えを見直し、これから活動の見直しを立てるきっかけになったと思っている。

## 反省

## -教育工学-

神埼高校　千綿　篤司

C A I の研修をしています。C A I といえばパソコンの使い方の研修と思っていたら、大変な間違い。C A I は教材の分析が一番です。これからも教材研究を大切にして、C A I にあたるよう思うこの頃です。

## プログラミングの奥深さ

## -情報処理-

唐津工業高校　山下　利秀

パソコンを生かした授業を求めて早5か月。グラフィック、表計算、ワープロ等広範囲の機能に驚き、プログラミングの奥深さが分かり始めた。生徒一人ひとりが意欲的に取り組めるようなソフトの開発に頑張っている。

## 研修雑感

## -情報処理-

神埼農業高校　崎村　昭隆

初步からの学習。しかも最も多忙な3か月。当初の「やれるだけしかやれないさ。」の開き直りの気持が、今では「少しでも立派な研修成果を。」という欲に変わって来た。残りあとわずか。精一杯挑戦してみたい。

# 私のすすめる一冊の本

「学校教師論」

(玉川大学出版部)

三浦 修吾

本書は玉川学園出版部で、現代かなづかい等読みやすいように改めた復刊書である。

福岡県吉井町のお生まれで鹿児島師範を振り出しに13年間の教師としての情熱は現代教師にも通じる体験記であり、人間教育の基盤となる人生論について書かれた本である。

宗教家でもあった作者は「逆境を神の恵み」と悟った人でもあり、教師として特に若い教師に一読してほしい本だと思う。

鳥栖市立鳥栖小学校

校長 毛利 仁之

「男は20代に何をなすべきか」 (大和出版)

著者 鈴木 健二

副題が「人間の基本を身につけるために」となっているように、20代の人たちに役立つ感銘深い書である。また、「男が40代にやっておくべきこと」「30代に男がしておかなければならないこと」等、一連の著書であるが、教師にとっても、その年代の指針ともなると確信する。

社会の第1線で活躍しつづけて来た人生の大先輩が20代~40代の確かな人生のために語り継ぎ、生き方を示唆する感動的な著書である。

七山村立七山小学校

校長 小島甚太郎

## お知らせ

### 情報処理教育生徒実習20,000人を超す

昭和58年に始められた教育センターでの生徒実習も5か年を経過し、実習参加の生徒数も本年2月末で2万人を突破しました。これは教育センターでの生徒実習の重要性が認識され、情報化社会の進展と共に、更に大きな期待が寄せられているからでしょう。

情報処理教育生徒実習年度別人数（昭和58年4月~昭和63年2月）(人)

	58年度	59年度	60年度	61年度	62年度	合計
商業	1,820	1,952	1,745	1,913	1,778	9,208
工業	2,043	2,190	2,313	2,293	2,287	11,126
計	3,863	4,142	4,058	4,206	4,065	20,334